

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2009

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2009

Renaissance

大学図書館を取り巻く環境は大きく様変わりしてきました。重厚で威厳がある一方、今風にいえばガラパゴス状態であった時代から、昨今では自ら考え動く組織として成立しているかが問われるようになってきています。

本学の図書館も例外ではありません。まず資料の電子化については、「SWAN」と名付けた学術情報リポジトリ・システムの運用、利用拡大に努めていますが、このフレームワークを活用して、各地の膨大な遺跡資料を電子的に統合管理するという新たな試みに、他大学と連携して取り組んでいます。加えて、地域に存在する貴重資料をデジタル化して蓄積し、閲覧できるようにするデジタル・アーカイブの整備を積極的かつ継続的に進め、特に人文社会科学系の今日的な教育研究の支援の一助となることを目指しています。

また、教員や学生の先端的な教育研究活動を支える道具としての電子ジャーナルですが、今日のような経済状況下にあっても価格上昇を続けており、タイトルを維持していくことは容易ではありませんが、日本、ひいては世界の将来を担う人材の育成を支えるためにも、利用者の意見を踏まえつつ、整備に力を注いでいます。

一方、島根県立図書館および松江市立図書館との3館合同企画として、今年度は「江戸を旅する 明治に学ぶ」と題する講演会および展示会を実施したほか、学内関連組織と連携し、旧奥谷宿舎を主会場とする企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」を開催しました。

学生の学習支援においては、情報副読本『学術情報リテラシー』の発行、特定のテーマで図書を紹介する「ブック★コンパス」、学生による選書企画「選書ツアー」、そして「蔵書リユース市」も継続して実施しました。さらに、医学図書館ニュースレター『インフォ・アクセス』に倣い、本館の旬の情報をお伝えするニュースレター『LiMe:ライム』を新たに発刊しました。図書館をもっと身近に利用するきっかけとしていただけることを期待しています。

今後の歩みゆくべき道を考えたとき、これまでの延長線上の取り組みだけでは対応しきれないに違いありません。電子ジャーナルはその具体の一例です。根本的な部分の議論から逃げることなく、皆さん方と一緒に考えていきたいと思っています。そして、誤解を恐れずに言わせていただければ、学生と教職員を人間として育む附属図書館であり続けたいと願っています。

附属図書館長 平 川 正 人



c o n t e n t s

Renaissance Topics	4
-----------------------------	---

図書館の動向

●貴重資料コレクションの収集と デジタル・アーカイブ	8
●遺跡資料リポジトリ・プロジェクト	10
●研究開発室の活動状況	11
●社会連携	12
●学術情報リテラシー育成支援	14
●学術情報基盤整備	16

統 計	17
図書館日誌	26

年間刊行物／新聞・テレビ等の報道	27
組織／人事異動	

中国四国地区大学 図書館協議会総会ほか開催

第57回中国四国地区大学図書館協議会(62館加盟)総会及び第36回国立大学図書館協会中国四国地区協会(10館加盟)総会が、本学附属図書館を当番館として、松江市のくにびきメッセで開催されました。協議会総会は4月16日(木)に開催され、「協議会ホームページの立ち上げ」「フレッシュ・パーソン・セミナーの開催」などについて全体協議が行われた後、各館種別の館長会議、事務局課長会議において、電子ジャーナル、機関リポジトリへの取組みなど、ホットな話題が協議されました。翌17日(金)には協会総会が開催され、「共同展示事業」「図書資料の収容力確保」など、当面する課題について協議が行われました。

【2009(平成21)年4月】



「まちなか大学祭」で 古本市開催

松江市殿町で、島根大学、島根県立大学、松江高専の学生が共同で企画・運営する「まちなか大学祭」が開催されました。この中で、島根大学のイベントの1つである「古本大放出し」のために、本館で不用となった図書約2,000冊を提供しました。

【2009(平成21)年4月】



アーカンソー大学の学生が 図書館見学

本学の交流協定校であるアーカンソー大学の学生・教員の一行8名が、県内にある小泉八雲ゆかりの地を訪ねる研修の一環として、本館を訪問しました。八雲文庫の見学がプログラムに組み込まれたもので、図書館では、前年度に開催した企画展示「アメリカのラフカディオ」のパネルや八雲自筆書簡を展示して一行を迎えました。見学後、引率のアーカンソー大学福島達也准教授から感謝のコメントと、学生たちから「ありがとうございました」という日本語の挨拶をいただきました。

【2009(平成21)年5月】



本館ニュースレター 『LiMe:ライム』創刊

タイムリーな図書館情報を届けるため、本館ニュースレター『LiMe:ライム』を発行することになりました。「本を読んで人生にときめき、ナイスなレポートを書いて授業できらめくために、お得な情報、そうでもない情報をたっぷり掲載」しています。年1回発行の年報や館報では伝えられない楽しくなる内容を心掛け、職員も毎月交代で執筆に取り組んでいます。最新号は閲覧室の机の上に置いて自由に手にとってもらえるように、また、図書館ホームページにバックナンバーを掲載しています。

【2009(平成21)年6月】



岡山市 デジタルミュージアムで パネル展示

9月29日(火)から10月18日(日)まで、岡山市デジタルミュージアムにおいて中国四国地区国立大学図書館の有志で、「教育」をテーマにした貴重資料のパネル展示を行いました。本学からは「教育者ラフカディオ・ハーン」と題し、来日直後、英語教師として松江の島根県尋常中学校に赴任したハーンの授業の様子や自身の教育観などを、所蔵する自筆書簡とあわせて紹介しました。ハーンが日本の旧き良き文化に敬意を抱き、学生に愛情を注ぎ、独自の方法で教育に真摯に取り組んだ様子を、多くの方々に知ってもらうことができました。

【2009(平成21)年9月】

3館 合同企画

「江戸を旅する 明治に学ぶ」企画展示・講演会開催

島根県立図書館、松江市立図書館、島根大学附属図書館の3館合同による企画展示「江戸を旅する 明治に学ぶ」を、本学附属図書館(本館)を会場に開催しました。江戸期から明治期前半の山陰地方に焦点を当て、産業、流通、教育など多方面にわたり、山陰地方が活気に溢れていた時代を所蔵資料とともに紹介しました。

会場の壁いっぱいに貼りめぐらされた国絵図の展示は圧巻で、来場者の注目を浴びました。また、人材育成のために整備された松江の藩校や学校から、世界に貢献する人物が輩出されたことなど、知っているようで知らない「地元再発見」の機会にもなりました。オープンしたばかりの大学ホールで開催された講演会では、それぞれの分野の興味深い事例が紹介され、4名の講師の個性あふれる話に惹き付けられました。

【2009(平成21)年10月】



◆展示会

【日時】平成21年10月3日(土)～11日(日)

【会場】島根大学 附属図書館(本館)

◆講演会

【日時】平成21年10月4日(日)

【会場】島根大学 大学ホール

【講演】「出雲・石見・隠岐の国絵図をめぐって」

池橋達雄(元島根史学会会長)

「うなぎ街道を行く」

乾隆明(松江市史編纂委員)

「江戸から明治へー近代法の成立と松江ー」

居石正和(島根大学法文学部教授)

「二葉亭四迷の松江ー<学校>の誕生ー」

武田信明(島根大学法文学部教授)

第5回 図書館蔵書リユース市開催

秋の恒例行事となった図書館蔵書リユース市を、今年度も開催しました。学生・教職員だけでなく地域住民の来場も多く、図書館の地域貢献活動として定着しています。また、学生の実行委員が中心となって広報などの事前準備から図書の搬入、会場の設営、販売、片付けまでを行うなど、参加型の企画として毎年多くの学生が運営に携わっています。提供冊数の6,320冊は前年度に比べ少なかったものの、販売数量は2,857冊にものぼり、盛況のうちに終えることができました。

【2009(平成21)年10月】



学内共同企画展示

「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」開催

島根大学の前身校である旧制松江高等学校及び師範学校時代の学問と教育をたどる企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」を、旧奥谷宿舎を会場に開催しました。本学のプロジェクト研究

推進機構の萌芽研究部門「歴史・文化資源を活かした地域まるごとミュージアム化実践プロジェクト」とミュージアム、附属図書館の共催で開催したものです。

松江師範学校に学び、郷里境港の発展に努めた足立正(1864～1947)の旧蔵書である足立文庫を中心に、師範学校、松高時代に使われた教科書や、卒業生である永井隆の自筆署名入りの寄贈本、花森安治の関連資料、高橋和巳の著書などを展示しました。

【2010(平成22年)2月～4月】

◆第1期

【日時】平成22年2月20日(土)・21日(日)・27日(土)・28日(日)

【会場】旧奥谷宿舎

◆第2期

【日時】平成22年3月1日(月)～4月16日(金)

【会場】本館1階展示コーナー



図書館

マスコットキャラクターと 利用案内

図書館広報の一環として、可愛らしいマスコットキャラクターを作成しました。また、これまで利用案内は本館、医学図書館で別々に作成していましたが、この機会にデザインを統一し、マスコットキャラクターを配した親しみやすいイメージとカラーにしました。

図書館では、利用者サービス向上のため、毎年新たな取り組みや改善を行っています。利用案内では、施設や資料の基本的な使い方、図書館ホームページから提供している様々なネット上のサービスなどを簡潔に紹介しています。

【2010(平成22)年3月】



図書情報システムのリプレイス

図書情報システムが、Licsu/WebからE-Cats Libraryへと変わりました。DBサーバ、OPACサーバ、AD認証サーバと業務端末35台、OPAC端末10台、情報メディアルーム端末41台で構成されるWeb型のシステムです。

ポータル環境は従来の<MyLibrary>から<MyOPAC>に変わりました。これまで別システムとなっていた図書の購入申込みや予算照会機能も統合され、<MyOPAC>からの蔵書検索では、検索語の保存やメニュー配置の変更が柔軟にできるようになりました。

管理面では、指定図書、電子ブックの管理機能や、新財務会計システムとの連携機能が追加されています。検索機能では、ノーヒット時や詳細画面からWebcat Plus、Google等の図書館で指定するサ

イトでの再検索機能が追加されており、図書館の蔵書と電子リソースのシームレスな利用を可能にするシステムとなりました。

【2010(平成22)年3月】



業務メニュー



蔵書検索(OPAC)



ポータル(MyOPAC)

島根県大学・高等専門学校図書館協議会総会及び研修会開催

第2回総会を本学附属図書館(本館)で開催しました。会員館から9名が出席し、2009(平成21)年度の事業報告、次期幹事館の選出があり、2010(平成22)年度の事業計画などが協議されました。

総会に続き、「学生用コレクションの整備とリポジトリの運用」のテーマで職員研修会が開催されました。筑波大学図書館の篠塚富士雄氏による基調講演「筑波大学附属図書館における貴重資料の公開と活用」のほか、会員館職員4名による事例報告が行われました。研修会には会員館の職員25名が参加し、活発な意見交換が行われました。

【2010(平成22)年3月】



「大森文庫ミニ展示」開催

医学図書館貴重書コレクション「大森文庫」には、古文書のほかに大森三楽が描いた掛軸も収蔵されています。これらは江戸時代後期作製のもので、傷みがあるため修復を行い、今年度はこの掛軸を撮影して実物大の複製版を作製しました。これにより、実物を使わずに展示ができるようになりました。

2月24日(水)より医学図書館大森文庫室前にこれらの複製掛軸を展示し、華岡青洲像など、本物と変わらぬ出来栄の掛軸を鑑賞していただきました。

【2010(平成22)年3月】

貴重資料コレクションの収集とデジタル・アーカイブ

1. 貴重資料の収集

附属図書館では、人文社会科学分野の資料整備の一環として、2007(平成19)年度から法文学部との共同購入により貴重資料コレクションの収集を進めています。その結果、次のような貴重な資料を多数収蔵することができました。

- 1)『石見名所集方角図解』(2007年度)
- 2)『出雲石見魚漁圖解』4巻(2008年度)
- 3)『因幡伯耆魚漁圖解』2巻(2008年度)
- 4)『出雲国十二郡図』(2008年度)
- 5)『元禄出雲国絵図』(2008年度)
- 6)『雲陽十郡絵図』(2009年度)

1)は、石見国37箇所を詠んだ和歌を、彩色した景観図とともに紹介した名所和歌案内です。歌人齋藤茂吉の旧蔵書で、附属図書館が所蔵する『出雲国名所歌集 初編、二編』の石見版ともいうべきものです。

2)、3)は、鳥取から出雲・石見地方で行われていた多くの漁法について、詳細な彩色絵付きで解説したものです。明治政府の殖産興業政策により産業が振興される中、当時の農具や漁具を詳細に記録した農具図解と漁具図解が島根県により編纂され、1881(明治14)年の第2回内国勸業博覧会に出品されました。ともに原本の所在は不明ですが、漁具図解の下書きにあたるのがこの資料です。附属図書館の田中文庫には農具図解の写しが既に収蔵されており、今回の収蔵により両者の写しと下書きが揃うこととなりました。

4)『出雲国十二郡図』(寛永13<1636>年)は、昭和初期に刊行された『島根県史』編纂の際に書き写され、島根県立図書館に所蔵されているものの原本(その後焼失)とほぼ同じ時期に作成されたと推定されるもので、5)『元禄出雲国絵図』(宝永7<1710>年写)は、松江市内の野津家に伝わる元禄出雲国絵図の宝永7年の写しです。また、6)『雲陽十郡絵図』は、幕末頃に作成されたと推定される出雲国絵図です。いずれも、出雲地方の国絵図研究を進める上で貴重な資料となっています。



2)『出雲石見魚漁圖解』



4)『出雲国十二郡図』



5)『元禄出雲国絵図』

2. デジタル・アーカイブによる地域の貴重資料の収集と公開

附属図書館は、2009(平成21)年5月にデジタル・アーカイブシステムを試験公開しました。附属図書館が所蔵する資料だけでなく、山陰地域の個人や機関が所蔵する貴重資料をデジタル画像化して収集、蓄積・保存し、利用に供しています。地域の貴重資料の掘り起こし、研究や教育における利用促進、代替利用による資料保存などに役立っています。

これらの貴重資料は、本学の研究プロジェクトや教員の研究過程の中で掘り起こされたもので、研究プロジェクトや教員と連携しつつ、デジタル画像データの収集を進めています。デジタル画像データの収集は、購入による収集とともに、貴重資料コレクション収集の一つの方法として、重要な位置を占めています。これまでにデジタル・アーカイブに搭載された主な地域資料は次のとおりです。

- 7)『松江城下大火絵図』他2点(松江市個人蔵)(2007年度)
- 8)『西山砂保肖像画』(松江市松村家蔵)(2007年度)
- 9)『山下水』(鳥取県琴浦町河本家蔵)(2008年度)
- 10)『文久二年八百首』他2点
(出雲市立大社図書館蔵)(2008年度)
- 11)『池田家(大仲)文書』
(隠岐の島町教育委員会蔵)(2008年度)

- 12)『石見国絵図』他1点(国立国会図書館蔵)(2009年度)
- 13)『天保国絵図出雲国』他4点(国立公文書館蔵)(2009年度)
- 14)『紙本着色石見国絵図』他1点
(浜田市教育委員会蔵)(2009年度)
- 15)『石井家(夷屋)文庫』(鳥取市石井家蔵)(2009年度)
- 16)『松壺文集』他18点(出雲市手銭家蔵)(2009年度)

3. 企画展示

所蔵資料やデジタル・アーカイブに搭載した地域の貴重資料をもとに、毎年企画展示会を開催しています。2009(平成21)年度は、島根県立図書館、松江市立図書館との3館合同企画展示・講演会の第3回目として、「江戸を旅する 明治に学ぶ一山陰の歴史、経済、教育・文化」を島根大学で開催しました。

展示会では、附属図書館が新たに収蔵した1)～5)の資料のほか、デジタル・アーカイブに搭載して公開している地域の貴重資料の中から、15)「石井家(夷屋)文庫」の資料現物を展示させていただくことができました。また、特に国絵図について、所蔵するもの以外に、日本全国の機関や個人が所蔵する島根県地域の国絵図の写真データを収集して展示しました。そのうちの一部である12)～14)については、許諾を得てデジタル・アーカイブに搭載し、公開しています。



遺跡資料リポジトリ・プロジェクト

附属図書館の「遺跡資料リポジトリ・プロジェクト」は、平成20-21年度国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築(CSI)事業及び、平成21年度科学研究費補助金事業に採択されました。本プロジェクトは、リポジトリ・システムによる共通仕様で電子版調査報告書を収集・保存し、ネットワークによる相互利用を推進する広域的試行プロジェクトです。本学が代表機関となり、分担・連携機関として鳥取大学、岡山大学、広島大学、山口大学(平成20年度)、東北大学、筑波大学、大阪大学、神戸大学、香川大学、高知大学、宮崎大学(平成21年度新規)の参加を得て進めています。

1. 始動の経緯

附属図書館ではこれまで、全国から寄贈される遺跡調査報告書を館内の遺跡資料室や書庫等に地域別に配架し、利用に供してきました。平成15-16年度には、文部科学省地域貢献特別支援事業により、島根大学埋蔵文化財調査研究センター(現:ミュージアム)、考古学研究室や県内自治体等と連携して「島根県遺跡データベース」を構築し、県内の遺跡情報の整理・利用促進に取り組んできました。しかしながら、全国各地で調査発行、寄贈される膨大な報告書は、形態も多様で登録・管理労力不足や収納スペースの限界から、学内各所に分散配置され非常に利用しにくい状況にあります。こうした傾向は、遺跡資料の寄贈を受ける全国の大学図書館でも共通して見られます。附属図書館では、資料を電子的に収集・保存・公開する機能を持つリポジトリ・システムの機能に着目し、各都道府県をそれぞれの守備範囲として、電子資料の分担収集、登録及び相互利用体制を推進する試行的プロジェクトを、中国5地域の国立大学を手始めに開始しました。

2. プロジェクトの目的

遺跡調査報告書は、考古学分野の研究者や学生にとっての基本資料であり、わが国の貴重な文化遺産の記録としても極めて重要な資料です。毎年各都道府県から印刷形態で少数発行され、紀要のように大学を含む関係機関での寄贈により流通するため、一般的には入手が困難です。このプロジェクトでは、これらの報告書の電子化を推進し、電子的な保存と共にインターネットでの公開を行い、考古・歴史学分野の学術研究や調査活動への貢献や、人類共通の文化遺産記録として一般社会での広い利活用も期待しています。

3. プロジェクトの概要

【地域連携】

プロジェクトの推進には、報告書の主な発行主体である各都道府県の文化財担当部署との連携・協力が必要です。文化財担当部署から報告書抄録データと報告書の提供を受け、大学は画像の品質、ファイルサイズの抑制やネットワーク環境などに配慮した資料の電子化を行い、リポジトリ・サーバに登録します。また、文化財担当部署による出版時のReal PDF作成やセルフアーカイビングも支援しています。

【広域連携】

各都道府県単位でリポジトリ・サーバを分散構築し、遺跡調査報告書の収集、電子化・公開を行います。2008(平成20)年度に中国5県域で始まった当事業は、2009(平成21)年度に新たに7県域の国立大学法人の参加を得て12県域に拡大しました。今後一層の拡大が進めば、全国の遺跡調査報告書を、遺跡資料リポジトリコンテンツでのネットワーク利用が可能となります。

4. システム概要・機能

従来のリポジトリ・システムに比べ、遺跡固有の情報活用やカスタマイズが容易な国産リポジトリ・システムEarmas(アーマス)を採用しています。遺跡報告書抄録をメタデータとして扱うようにカスタマイズを行った事で、Google Mapsを使い地図上に遺跡所在地をプロットし、そこから遺跡資料にナビゲートする機能を利用することが

できます。また、VMWare Serverを用いるWindows、Linux環境上に仮想マシンを構築することで、システムの導入やバックアップ、再構築を容易にしています。

2009(平成21)年度は利用機能の拡張を行い、前年度の基本検索機能(書名検索・遺跡名検索・キーワード検索)に加え、報告書全文検索、プロジェクト参加機関の各県域の資料を横断的に検索する横断検索機能を追加しました。

5. 活動状況(2007~2009年度)

2007年度	11月	・シンポジウム:遺跡資料リポジトリを考える(会場:岡山大学)
	12月	・リポジトリ・システム仕様検討
2008年度	5月	・平成20-21年度CSI委託事業(領域2)に採択 ・中国5県の自治体・大学による共同事業として始動
	9月	・プロジェクト連絡調整会議開催(会場:岡山大学)
2009年度	2月	・セミナー:遺跡調査報告書電子化の新たな試み! (会場:岡山大学) ・遺跡資料リポジトリパンフレット(初版)作成
	5月	・参加機関の拡大(5県域から12府県域へ) ・平成21年度科学研究費補助金事業に採択
	9月	・プロジェクト連絡調整会議開催(会場:大阪大学)
	11月	・シンポジウム「遺跡資料リポジトリ」開催(会場:大阪大学) ・平成21年度遺跡資料リポジトリパンフレット(2版)・予稿集等作成
	3月	・12府県域 約4,600件-46万頁の電子化調査報告書公開開始

6. 島根県遺跡資料リポジトリの成果

2007(平成19)年12月、プロジェクト申請に先立ち、島根県内の各自治体埋蔵文化財担当者を招いて説明会を開催し、協力を要請しました。2008(平成20)年度には島根県、松江市、出雲市、浜田市、益田市、大田市、雲南町、奥出雲町、隠岐の島町の9自治体の協力を得て、過去分を合わせて報告書234件を公開しました。さらに2009(平成21)年度には、新たに安来市、斐川町、邑南町、吉賀町、西ノ島町等の協力を得、合わせて14自治体の報告書約500件の公開を推進しました。



遺跡資料リポジトリ・プロジェクトサイト
<<http://rarcom.lib.shimane-u.ac.jp/>>



島根県遺跡資料リポジトリ
<<http://rar.lib.shimane-u.ac.jp/Repository/Index.e>>

研究開発室の活動状況

2009(平成21)年度は、政策的配分経費「附属図書館研究開発室による地域貢献プロジェクト—貴重資料デジタルアーカイブによる教育・研究及び調査支援事業—」の経費配分を受けて、次の6つのプロジェクトを推進しました。

専門部会の活動

(1) 歴史・地理系専門部会

本学及び学外機関等が所蔵する文書資料の目録作成、電子化作業を継続して行いました。

- 本学所蔵の林家文書の未整理分の目録作成
- 定秀家文書(松江市美保関町)の目録作成と電子化を松江市教育委員会と共同で行い、ほぼ全点の目録作成と、選択的に1,300点の電子化を完了
- 野津家(松江市)所蔵の藩政史関係の文書約160点の電子化
- 企画展示に合わせて、国立国会図書館等が所蔵する島根県地域に関する近世の絵図(古地図)の写真データの収集を行い、デジタル・アーカイブに搭載

(2) 国書・漢籍系専門部会

本学及び学外機関等が所蔵する和古書の電子化に継続して取り組みました。

- 本学所蔵の桑原文庫及び堀文庫を中心とした電子化
- 石井家(鳥取市青谷)所蔵の主要な古典籍81点の電子化を完了し、デジタル・アーカイブで公開
- 手銭記念館(出雲市 19点)及び河本家(東伯郡琴浦町 11点)の古典籍の電子化

(3) ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会

八雲文庫室のコレクションやハーンデータベースの整備などを行いました。

- 八雲文庫室の資料として、縮緬本などの稀覯本や洋書等を購入
- ハーンデータベースの分析・評価や、新規データの収集・調査を継続して実施
- 岡山市デジタルミュージアムで開催されたパネル展示に「教育者ラフカディオ・ハーン」を出展
- 2008(平成20)年度に開催した3館合同企画展示・シンポジウム「アメリカのラフカディオ」の成果をもとに、図書の出版を企画

(4) 古医書及び大森文庫専門部会

大森文庫資料の電子化及び新たに寄附を受けた資料の整理などを行いました。

- 2005(平成17)年度と2007(平成19)年度に大森家から寄附を受けた掛軸10幅の電子化
- 医学図書館で「大森文庫ミニ展示」を開催
- 松尾家(大田市温泉津町)からの寄附資料227点の目録作成
- 西東文庫の一部の電子化に着手し、パネル用ポスター7点を作成

(5) 教科書データベース専門部会

島根師範学校時代から収集されてきた未整理の教科書資料(江戸時代の往来物、明治～昭和の教科書等)約2万点について、目録の情報源(表紙・標題紙・奥付)の写真撮影を完了し、そのうち6千点の簡易目録データの登録を行うとともに、データベース化の方針について検討を行いました。

(6) 電子図書館推進専門部会

Web上の文書を、ページをめくるイメージで利用可能なFLIPPER3を導入し、従来PDF形式で提供していた附属図書館報『淞雲』及び『年報』について提供を開始しました。

また、情報処理システムの更新に合わせて高精細画像サーバの更新を行いました。画像サーバソフトにはMEDIARICHCOREを導入し、既存データの変換と新機能の検証を行った上で、次年度以降の本格稼働を目指します。



FLIPPER3で見る『淞雲』10号

室員名簿 2009(平成21)年度

所 属	氏 名
室 長(附属図書館長)	平 川 正 人
(1)貴重資料:歴史・地理系専門部会	
法文学部教授	竹 永 三 男
法文学部准教授	小 林 准 士
島根大学名誉教授	松 尾 寿
(2)貴重資料:国書・漢籍系専門部会	
法文学部教授	蘆 田 耕 一
法文学部教授	田 中 則 雄
法文学部教授	要 木 純 一
島根大学名誉教授	下 房 俊 一
(3)ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)専門部会	
教育学部教授	高 瀬 彰 典
法文学部教授	長 岡 真 吾
島根大学名誉教授	常 松 正 雄
(4)古医書及び大森文庫専門部会	
医学図書館長	富 岡 治 明
医学部附属病院長	小 林 祥 泰
医学部教授	小 林 裕 太
医学部教授	岩 田 淳
外国語教育センター准教授	大 島 カレン
(5)教科書データベース専門部会	
教育学部教授	権 藤 誠 剛
教育学部教授	森 本 直 人
(6)電子図書館推進専門部会	
附属図書館長	平 川 正 人
法文学部教授	野 田 哲 夫
教育学部教授	森 本 直 人

社会連携

地域社会へのさらなる貢献を果たすために、2009(平成21)年度も引き続き企画展示・講演会や地域の図書館との相互協力、職員研修会などを一層推進する活動を行いました。

1.3館合同企画展示・講演会の開催

相互協力協定に基づく島根県立図書館及び松江市立図書館との3館合同企画展示・講演会は今年で3回目となり、「江戸を旅する 明治に学ぶ―山陰の歴史、経済、教育・文化―」をテーマに開催しました。

【講演会】

期 日：2009(平成21)年10月4日(日)13:30～17:00

会 場：島根大学ホール

講 演：「出雲・石見・隠岐の国絵図をめぐって」

(元島根史学会会長 池橋達雄)

「うなぎ街道を行く」

(松江市史編纂委員 乾隆明)

「江戸から明治へ ―近代法の成立と松江―」

(島根大学法文学部教授 居石正和)

「二葉亭四迷の松江 ―＜学校＞の誕生―」

(島根大学法文学部教授 武田信明)

【展示会】

期 日：2009(平成21)年10月3日(土)～10月11日(日)

会 場：島根大学附属図書館3階会議室

展 示：第1部 江戸期の地誌・紀行① 一 国絵図一

第2部 江戸期の地誌・紀行② 一 名所・産業一

第3部 江戸から明治の教育

第4部 明治期の先覚者たち

第1部では、前年度に収蔵した出雲国絵図を中心に、全国の機関や個人が所蔵する出雲、石見、隠岐の国絵図の写真データを借り受けて展示を行いました。県内の各期の主要な国絵図を一堂に集めて比較する展示は過去に例がなく、ユニークな展示会となりました。

第2部では、江戸期の山陰地域に関する地誌・紀行や産業を取り上げました。島根県立図書館が所蔵する地誌や紀行文、附属図書館が新たに収蔵した『石見名所集方角図解』『出雲石見魚漁圖解』『因幡伯耆魚漁圖解』を展示したほか、鳥取市青谷の石井家からは、デジタル・アーカイブに収録した和算や天文学に関する和古書、ロシアに漂流した日本人の世界一周の聞き書き『環海異聞』などを出展していただきました。

江戸期から明治にかけて、松江を中心に藩校、私塾、学校が次々に開設されました。第3部では教育制度の近代化の様子を、続く第4部では、その中で輩出された郷土の先覚者である梅謙次郎、岸清一、若槻禮次郎、桑原羊次郎の足跡を、松江市立図書館と島根県立図書館の所蔵資料を中心とした構成で展示しました。

2. 物流による相互貸借

従来より、地域の図書館との間で物流を利用した図書の相互貸借を行ってきましたが、2009(平成21)年10月に島根県立図書館の県内図書館横断検索システムとILLシステム(相互貸借システム)が稼働し、ILLシステムによる図書の借り受け申し込みができるようになりました。現在参加している図書館は38館で、未参加館もありますが、前年度と比較するとより広範囲の公共図書館から貸出依頼が入るようになり、附属図書館から貸出依頼をする際にも、依頼先の選択肢が広がりました。

相互貸借冊数

	貸出冊数		借受冊数	
	2008(H20)	2009(H21)	2008(H20)	2009(H21)
島根県立大学(浜田)	3	0	3	0
島根県立大学(松江)	13	6	1	1
島根県立大学(出雲)	0	0	0	0
松江高専	7	11	0	0
島根県立図書館	12	5	20	23
県立以外の公共図書館	12	22	5	6
合 計	47	44	29	30

3. 島根県大学・高等専門学校図書館協議会の活動

島根県内の高等教育機関の図書館が相互に連携し、各館の充実・発展とサービス向上を目指す島根県大学・高等専門学校図書館協議会の総会と職員研修会を開催しました。

【総 会】

日 時：2010(平成22)年3月11日(木)13:00～14:15

場 所：附属図書館3階会議室

総会は隔年で開催されるため、今回は協議会発足後、第2回目の総会となります。今年度の事業報告の後、次期幹事館(島根県立大学メディアセンター)の選出があり、次年度計画、島根県図書館協議会の設立のための協会要項案等について協議が行われました。次年度計画では、職員研修会の開催、地域貢献事業について検討するワーキンググループの設置、協議会ホームページの充実、全国図書館大会への対応などがあげられ、次期幹事館を中心に、第2期の活動体制が整いました。

【職員研修会】

日 時：2010(平成22)年3月11日(木)14:30～17:00

場 所：附属図書館3階会議室

第1部 基調講演

「筑波大学附属図書館における貴重資料の公開と活用」

(筑波大学附属図書館 情報管理課課長補佐
篠塚富士雄)

第2部 事例報告

(1) 学生用コレクションの整備

「島根県立大学メディアセンターにおける選書

ー現状と課題ー」

(島根県立大学メディアセンター 上野友稔)

「島根大学附属図書館における資料整備

ー館内複写の利用状況分析ー」

(島根大学附属図書館 矢田貴史)

(2) 機関リポジトリとサブジェクトリポジトリ

「遺跡リポジトリの構築と運用の実際」

(島根大学附属図書館 中井陽子)

「島根大学附属図書館デジタル・アーカイブ」

(島根大学附属図書館 昌子喜信)

基調講演は、筑波大学のこれまでの電子図書館サービスの取組みと、貴重資料の電子化と公開方法に関する内容で、同様の取り組みを進める島根大学にとって、大変参考となるものでした。

事例報告では、学生への学習支援の基盤となる学生用図書の整備と、サブジェクトリポジトリの一種である遺跡資料リポジトリ、島根大学デジタル・アーカイブについての取組事例が報告されました。



学術情報リテラシー育成支援

学習や研究を行う上で必要となる学術情報を活用する能力(学術情報リテラシー)の育成を支援するため、各種講習会を開催しています。2009(平成21)年度は、オンデマンド講習会に重点を置く一方で、図書館主催講習会も積極的に開催しました。

1. 講習会の開催

図書館主催講習会は、図書館で日程と内容を設定して行うもので、新入生向けの図書館ツアーから、外部講師を招いての特定データベース講習会まで幅広い内容で実施しています。開催日程や内容については、ポスターやホームページ上で周知しています。

オンデマンド講習会は、利用者からの要望に応じて日程、内容を調整して行うものです。教員からの申込により授業の一環として行われるもののほか、学生や職員のグループ単位でも実施しています。図書館ツアーを組み込むこともあり、施設の利用と資料の紹介を通して、図書館を活用した情報収集活動を多面的にサポートしています。



2. 松江キャンパス(本館)の現状と課題

図書館主催講習会の回数を増やし、ポスター、ホームページ、ニュースレターなどで講習会への参加を呼び掛けましたが、参加者数は昨年度より減少してしまいました。一方、今年度から新たな試みとして、カウンターで個別指導を行う「文献検索ヘルプデスク」を開設しました。開設期間中(約5カ月)30件近い相談があり、個別指導の必要があることがわかりました。次年度も継続して実施する予定です。

オンデマンド講習会は回数、参加者数ともに伸びてきており、継続実施を希望する授業が定着しつつあります。今後もさらに実施する授業数を増やしていく努力をしていきます。

授業での受講は増加しましたが、まだほんの一部です。未受講の学生への働きかけを進めるとともに、内容の見直しや担当者の養成など、実施体制の整備も必要です。また、対面での講習会だけでなく、好きな時間に一人で学ぶことができるWeb上のオンライン・チュートリアルについても、引き続き整備していく必要があります。

3. 出雲キャンパス(医学図書館)の現状と課題

図書館主催講習会は、回数、参加者数ともに昨年度から大きな伸びを示しました。「いつでも、どこへでも」の「医局出張講習会」、毎月第3週の「文献検索週間」を新たに企画し実施したことによる効果といえます。

日々の学習や研究に役立つ各種データベースや電子ジャーナルを、より多くの利用者に使いこなしてもらうために、これからも利用者ニーズにあった形での講習会を企画し進化させていきます。

2009(平成21)年度実績

		松江キャンパス(本館)			出雲キャンパス(医学図書館)		
		2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)	2007(H19)	2008(H20)	2009(H21)
図書館主催	回数	13	29	37	7	26	44
	参加者数	107	100	66	66	220	336
オンデマンド	回数	37	27	35	25	12	5
	参加者数	636	551	883	268	229	233
参加者総数		743	651	949	334	449	569

松江キャンパス(本館)

<図書館主催講習会>

開催日	内 容	対 象	回数	人数
4/14・21	図書館概要	新入生	4	0
4/14・21	図書館ツアー	新入生	1	1
5/12～22	図書館概要	新入生	4	3
5/12～22	図書館ツアー	新入生	4	3
5/11	利用概要、OPAC、 図書館ツアー	公開講座受講生	1	7
5/11・20	OPAC	新入生	4	2
5/26	RefWorks	学生・教職員	1	13
6/3	OPAC、Webcat、 Webcat Plus	学生・教職員	1	0
6/10	CiNii	学生・教職員	1	6
6/17	Web of Science、 Current Contents Connect	学生・教職員	1	6
6/19	レポート作成法	学生・公開授業生	1	5
6/25	Web OYA-bunko	学生・教職員	1	0
10/14	図書館活用法	学生・教職員	1	0
11/6	図書館活用法	学生・教職員	1	0
10/21・30	CiNii	学生・教職員	2	1
10/23	JDreamII	学生・教職員	1	0
11/25	JDreamII	学生・教職員	1	2
11/4・9	JapanKnowledge	学生・教職員	2	1
11/11・20	新聞DB	学生・教職員	2	0
11/12	Web of Science	学生・教職員	1	13
11/13・18	RefWorks	学生・教職員	2	3
合 計			37	66

<オンデマンド講習会>

開催日	内 容	対 象	回数	人数
4/16・23	OPAC、図書の探し方、 図書館ツアー	総合理工学部 1回生 (授業)	4	80
4/22	OPAC、図書の探し方、 図書館ツアー	法文学部1回生 (授業)	2	60
5/1	OPAC、図書の探し方、 図書館ツアー	法文学部1回生 (授業)	2	60
4/24	OPAC、Webcat Plus、 新聞記事、 図書購入リクエスト、 図書館ツアー	生物資源科学部 1回生 (授業)	1	30
4/27	OPAC、図書の探し方、 図書館ツアー	総合理工学部 1回生 (授業)	1	35
4/27	OPAC、図書の探し方、 新聞記事、図書館ツアー	生物資源科学部 1・2回生 (授業)	2	40
4/30	OPAC、図書の探し方、 日本語DB	生物資源科学部 2回生 (授業)	1	26
5/12	図書館ツアー、新聞記 事	法文学部3回生 (授業)	1	12
5/14	OPAC、図書の探し方、 図書館ツアー	教育学部1回生 (授業)	1	33
5/25	OPAC、図書の探し方、 新聞記事、日本語DB	教育学部3回生 (ゼミ)	1	5
5/28	OPAC、図書の探し方、 日本語DB、図書館ツ アー	法文学部1回生 (授業)	1	40
6/4	OPAC、図書の探し方、 日本語DB、図書館ツ アー	法文学部1回生 (授業)	1	40
6/9	JapanKnowledge、 CiNii、JAIRO、 Webcat Plus、 OPAC、新聞記事	法文学部3回生 (授業)	1	5

6/29	新聞記事	外国語センター 1・2回生 (授業)	1	28
7/7・14	OPAC、図書の探し方、 日本語DB、図書館ツ アー	総合理工学部 1回生 (授業)	2	100
10/14	OPAC、図書館ツアー	法文学部 1・3 回生 (授業)	1	14
10/15	JDreamII、CiNii、 Web of Science	生物資源学部 2回生 (授業)	1	22
10/20	OPAC、レポート作成、 図書館ツアー	総合理工学部 1回生 (授業)	3	80
10/28	OPAC、文献DB、 電子ジャーナル	総合理工学部 1回生 (授業)	1	60
11/10	OPAC、CiNii	総合理工学部 1回生	1	4
11/12	OPAC、CiNii、新聞記 事、図書館ツアー	法文学部1回生 (授業)	1	34
11/12・18	教員による文献検索指 導	教育学部 (授業)	2	8
11/17	OPAC、CiNii、図書館 ツアー	教育学部2回生 (授業)	1	7
11/20	CiNii、 Web of Science	法文学部3回生 (授業)	1	25
12/7	JDreamII PubMed、 OPAC	生物資源学部 3回生 (授業)	1	35
合 計			35	883

出雲キャンパス(医学図書館)

<図書館主催講習会>

開催日	内 容	対 象	回数	人数
4/2	医学図書館の利用法、 看護研究のための文献 検索法	看護部新入職員	1	35
4/3	医学図書館の利用法、 文献検索データベース、 電子ジャーナル、 ShimaneLINKS、 MyLibrary	卒後臨床研修セ ンター所属研修 医	1	38
5/26	RefWorks、Medical EvidenceMatters	院生、教職員	1	39
9月～11月	医中誌Web、PubMed、 電子ジャーナル、 OPAC、MyLibrary、 学外文献依頼法	医学科3年生	14	59
11/12	Web of Science、 Journal Citation Reports	院生、教職員	1	17
通年	各種データベース、 電子ジャーナル、 文献複写依頼方法等、 図書館HPからのサー ビス説明とデータベース 検索実演	臨床系教職員	12	131
通年 (毎月第3週)	医中誌Web、PubMed、 CINAHL	学生・院生・教 職員	14	17
合 計			44	336

<オンデマンド講習会>

開催日	内 容	対 象	回数	人数
4/20・23	CINAHL、PubMed、 電子ジャーナル、 (OPAC、医中誌Web の復習)、学外文献依頼	看護学科3年	2	73
4/30	CINAHL、PubMed、 医中誌Web	看護院生	1	12
5/19・26	医中誌Web、OPAC、 電子ジャーナル、 My Library、 文献入手の方法	看護学科2年	2	148
合 計			5	233

学術情報基盤整備 —電子ジャーナルの充実に向けて—

本学では2001(平成13)年度から開始した「学術情報基盤整備計画」により、全学的観点から複数の専門分野をカバーする外国雑誌を中心とした電子ジャーナル及び引用文献データベース等の計画的な整備を行っています。この整備計画は3年ごとに見直しを行い、「第四期学術情報基盤整備計画(平成22-24年)」では、電子ジャーナル(主要出版社12系列、約8,000誌)と引用文献データベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフト等を利用できるように整備を進めています。また、化学系、医学系、工学系などの専門分野のパッケージや個別タイトル約800誌について、部局経費により契約し維持しています。

1. 第四期学術情報基盤整備計画の概要

■ 基本方針

- ・学術情報基盤整備にかかわる電子ジャーナルは、全学的観点から、本学の複数の専門分野をカバーするパッケージとして提供されるジャーナル群を整備する。また、特に共通性が高く重要なジャーナルの数タイトルをコア・ジャーナルとして位置付け整備する。
- ・各専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、必要とする部局経費で整備する。

- ・電子ジャーナル等の学術資源を効率的に利活用できるデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフト等を整備する。
- ・必要とする情報へのアクセスが容易で分かりやすく、利用者がこれらのサービスを学外からも利用できる環境整備を推進する。
- ・学術情報基盤系のタイトルは戦略的に選定し、共通経費、部局経費、間接経費等を工夫して整備を図る。
- ・電子ジャーナル契約は、入念な市場調査とともにコンソーシアム等を活用し経費圧縮に努める。

■ 利用できる電子ジャーナル、データベース等

		電子ジャーナルデータベース名称
電子ジャーナル パッケージ	1	Elsevier : ScienceDirect
	2	SpringerLINK
	3	Wiley InterScience
	4	Cambridge Online Package
	5	Oxford Online Package
	6	Nature & Research誌
	7	JSTOR : Arts, General Sci.
	8	ProQuest: RL/PHMC
コア電子ジャーナル	9	ProNAS
	10	Science
	11	Cell
	12	NEJM: New England Journal of Medicine
データベース	13	Web of Knowledge
	14	SwetsWise Linker
	15	Search Solver
	16	Refworks

2. 基盤整備をすすめる上での課題

電子ジャーナルの整備については、学術出版社の寡占化、独占化による価格高騰により、全国の大学、研究機関で対応に苦慮しているところですが、特に本学のような地方の国立大学では、年々維持が困難になってきています。附属図書館ではこれまで、出版社との価格交渉、契約タイトルの見直し、一時中止による価格抑制、部局との経費分担などあらゆる方法で努力を重ね、辛うじて維持してきましたが、もはや個別努力では限界にきています。

この問題に対する一つの活動として、国内でもSPARC Japan(※1)や機関リポジトリ(※2)などによる学術論文のオープン・アクセス活動が始まっており、また国家レベルでの戦略的かつ有効な学術情報基盤整備支援策もとられ始めています。しかし、これらは直ちに効果が期待できる状況にはありません。

電子ジャーナルの整備・維持が大学全体の教育研究活動に与える影響は大きく、附属図書館運営委員会でもアンケートや教員懇談会により全学の意見を聴取し、維持すべきとの要望をたくさんいただきました。厳しい財政状況下ではありますが、必要なタイトルを維持していくため、大学全体で、工夫と努力を続けていく必要があります。

(※1) SPARC Japan

日本の学協会等が刊行する学術雑誌の電子ジャーナルを支援・強化することによって、海外に流出する我が国の優れた研究成果を我が国の研究者自身の手に取り戻し、海外への研究成果発信の一層の普及を推進するため国立情報学研究所が実施している国際学術情報流通基盤整備事業

(※2) 機関リポジトリ

研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積・保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

2009(平成21)年度データ

2009 Data

			本館 (松江キャンパス)	医学図書館 (出雲キャンパス)	合 計
開 館 日 数	平 日		230	238	
	土・日・祝 日		76	111	
	合 計		306	349	
利用対象者数 (平成22年5月1日現在)	教 職 員		2,282		2,282
	学 生		5,170	1,052	6,222
	学 外 者		481	81	562
	合 計				9,066
入 館 者 数	学 生・教 職 員		320,458	191,149	511,607
	学 外 者		10,846	405	11,251
	合 計		331,304	191,554	522,858
貸 出 冊 数	学 生		42,711	11,717	54,428
	教 職 員		4,209	3,048	7,257
	学 外 者		2,295	501	2,796
	合 計		49,215	15,266	64,481
蔵 書 冊 数 (平成22年3月31日現在)	和 漢 書		603,550	64,190	667,740
	洋 書		151,542	55,259	206,801
	合 計		755,092	119,449	874,541
図 書 受 入 冊 数	和 漢 書	購 入	8,846	1,370	10,216
		寄贈・その他	4,743	505	5,248
		計	13,589	1,875	15,464
	洋 書	購 入	941	286	1,227
		寄贈・その他	259	35	294
		計	1,200	321	1,521
	合 計		14,789	2,196	16,985
雑 誌 所 蔵 種 類 数	和 雑 誌		9,158	2,227	11,385
	洋 雑 誌		2,961	1,711	4,672
	合 計		12,119	3,938	16,057
雑 誌 受 入 種 類 数	和 雑 誌	購 入	604	212	816
		寄贈・その他	2,686	271	2,957
		計	3,290	483	3,773
	洋 雑 誌	購 入	263	99	362
		寄贈・その他	142	68	210
		計	405	167	572
	合 計		3,695	650	4,345
資 料 費 (千円)	学 生 用 図 書		15,651	5,361	21,012
	雑 誌		5,759	3,461	9,220
	小 計		21,410	8,822	30,232
	デ ー タ ベ ー ス		8,372		8,372
	電 子 ジャ ー ナ ル		81,539		81,539
	合 計		120,143		
文 献 複 写 件 数	受 付		1,469	2,422	3,891
	国 内 依 頼		3,666	3,303	6,969
	海 外 依 頼		9	15	24
現 物 貸 借 件 数	貸 出		263	9	272
	借 受		535	29	564

利用者

In-Library Users

■入館者数

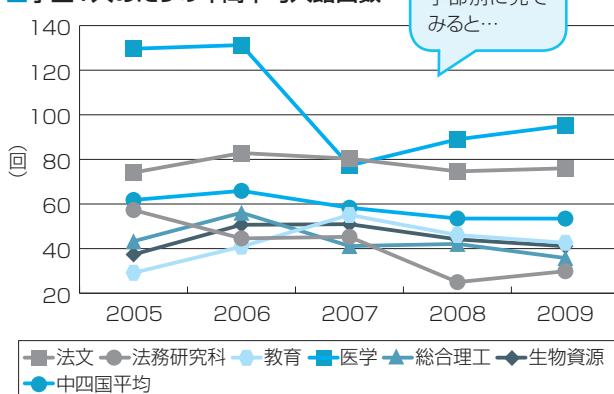
		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
本館	学生・教職員	358,033	361,486	350,163	333,097	320,458
	学外者	8,941	11,001	9,017	10,033	10,846
	計	366,974	372,487	359,180	343,130	331,304
医学図書館	学生・教職員	232,813	239,307	144,703	175,151	191,149
	学外者	446	535	323	374	405
	計	233,259	239,842	145,026	175,525	191,554
合計		600,233	612,329	504,206	518,655	522,858

※医学図書館は、2007年度に耐震・改修工事を行った。

入館者数は、ここ2～3年横ばい状態が続いています。本館では3年連続で入館者が減っており、医学図書館でも2007年の耐震改修後は増加がみられるものの、ピーク時の2006年の数値までは回復していません。一因として、データベースや電子ジャーナルなど、来館しなくても利用できるデジタル環境が整ってきていることが挙げられます。

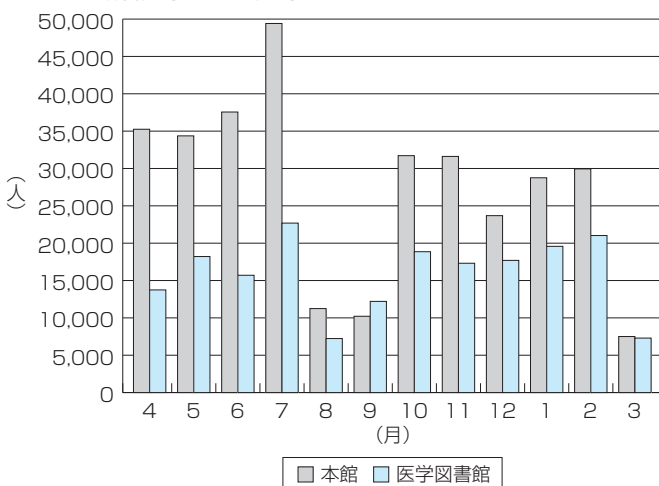
学内においては数少ない学習施設として、学生を中心とした利用者のニーズにどこまで応えられているかを念頭に置きながら、より一層の環境整備を図っていく必要があります。

■学生1人あたりの年間平均入館回数

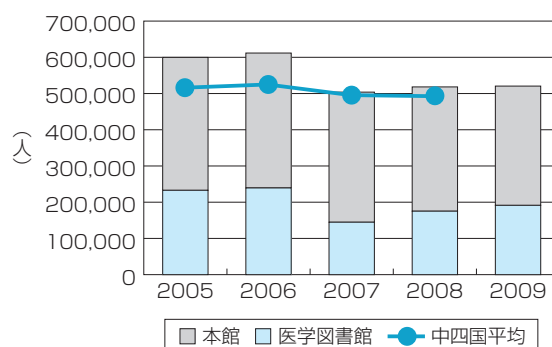


※医学部については学生と教職員の区別ができないため、教職員を含めた平均値

■月別入館者数(2009年度)

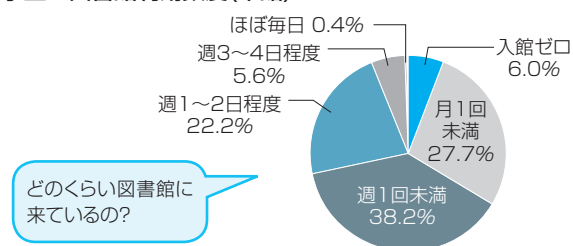


■入館者数の推移



※中四国平均は、「日本の図書館：統計と名簿」(日本図書館協会編)に掲載の中四国地区国立大学のうち、島根大学と同規模校(学部数2～7学部)7校(広島・岡山・鳴門教育大学を除く)の平均値を用いた(以下、同)。

■学生の図書館利用頻度(本館)



年間平均入館回数をみると、学部間の差はあるものの、全体では微減傾向です。また、本館(松江キャンパス)の学生の利用頻度をみると、1年間に1度も図書館を利用しなかったという学生は6%ですが、全体のおよそ3分の1にあたる学生が、ほとんど図書館を利用していなかったことがわかります。

図書館が必要ないかといえば、そうではありません。情報メディアルーム、グループ学習室などは多くの学生が利用しており、試験期には常に席が不足するほどです。学生のニーズに対応したサービスを提供し、また、デジタル環境とともに、冊子資料も並行的に利用できるような機能的な学習環境を整備することで、利用促進を図っていかねばなりません。

これまでの図書館は、静謐だけが求められる場所でした。今後は、柔軟な空間配置(ゾーニング)により、ディスカッションできるようなスペースを設けるなど、学生の多様なニーズに応えるための環境づくりを、施設面からも捉え直すべき時期にきています。

貸出冊数

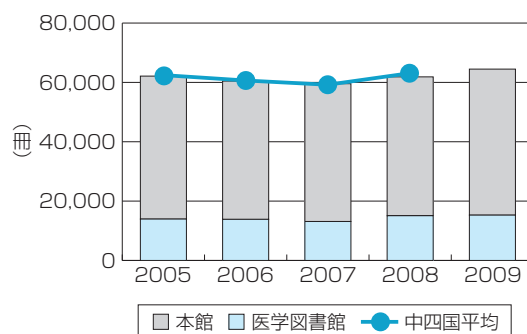
Circulations

少しずつですが、
増えています！

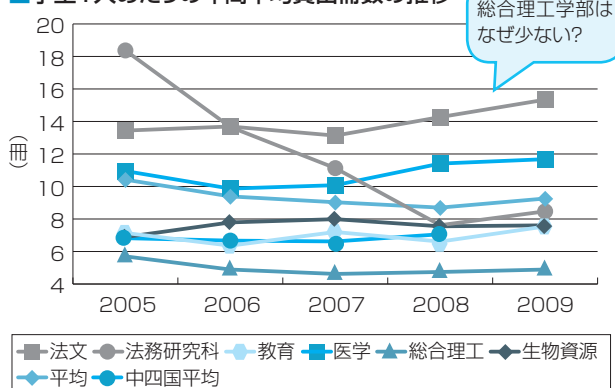
■貸出冊数

		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
本館	学 生	44,735	42,022	41,198	41,095	42,711
	教職員	2,425	2,770	3,257	3,814	4,209
	学外者	1,023	1,820	1,983	1,888	2,295
	計	48,183	46,612	46,438	46,797	49,215
医学図書館	学 生	10,350	9,469	9,662	11,429	11,717
	教職員	2,736	3,498	2,928	3,106	3,048
	学外者	854	879	539	536	501
	計	13,940	13,846	13,129	15,071	15,266
合 計		62,123	60,458	59,567	61,868	64,481

■貸出冊数の推移



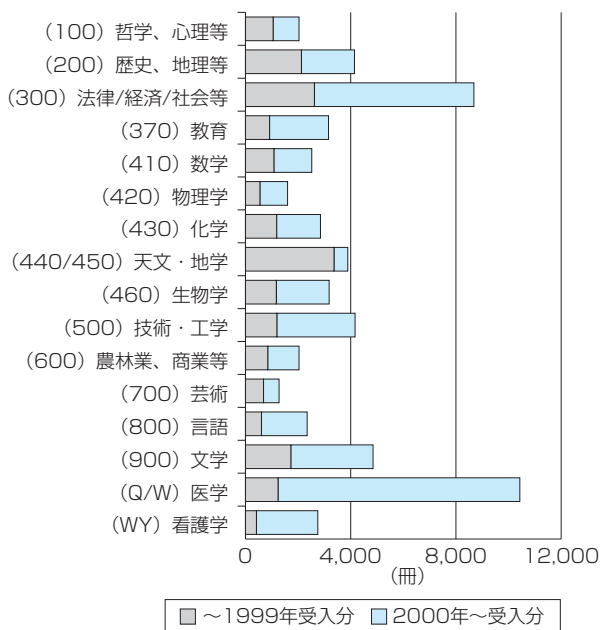
■学生1人あたりの年間平均貸出冊数の推移



学部別の年間平均貸出冊数をみると、専用の資料室が充実している法務研究科を除けば、学生の貸出冊数はわずかですが増加傾向にあります。シラバス掲載図書の購入、カリキュラムに沿った体系的な資料整備が一定の成果を挙げていると言えます。

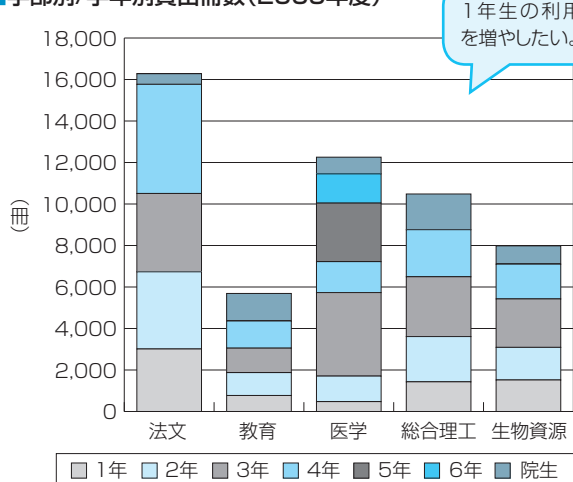
同じグラフでは、学部間の差が大きいこともわかります。学部や分野により、授業の方法や利用する資料の種類、学習形態の違いなどがありますが、授業と連携した利用講習会等を通して、図書館資料の積極的な活用を促す必要があります。

■分野別貸出冊数(2009年度)



※()内の数字及びアルファベットは、図書分類。

■学部別/学年別貸出冊数(2009年度)



学生の貸出冊数を学年ごとに見てみると、レポートの作成やゼミでの発表が増えてくる3年時が多く、1年時の貸出数が少ないことがわかります。教養科目が多い1年時にこそ、幅広い分野の本にもっとたくさん触れておいて欲しいものです。入学後、早い段階で図書館を利用する習慣を持つことは、その後の学習にも大きな力となるはずです。図書館では、初年次教育プログラムと連携し、「初年次教育・授業関連図書コーナー」(2010年4月開設)を設けるなど、学生の学習支援に積極的に取り組んでいます。

分野別の貸出冊数のグラフは、貸し出された図書を、分野と受入期間で分けたものです。新刊書がほとんどを占める分野がある一方で、古い本でもよく利用される分野があることがわかります。カリキュラムに沿った適切な蔵書構成がとれているか、多様な視点からの評価が必要です。

図書

Books

蔵書冊数(分類別)

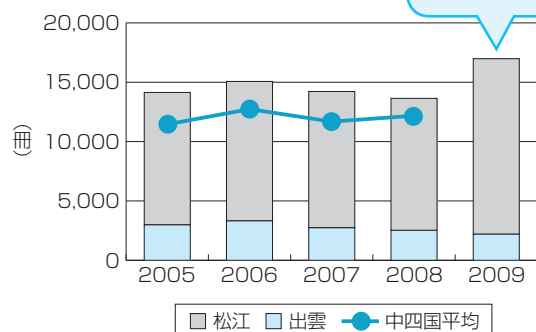
2010(平成22)年3月31日現在

	松 江			出 雲	合 計
	和漢書	洋 書	小 計		
000 総記	57,800	10,320	68,120	1,664	69,784
100 哲学	37,717	11,406	49,123	1,605	50,728
200 歴史	57,949	7,819	65,768	1,063	66,831
300 社会科学	194,225	33,800	228,025	4,346	232,371
400 自然科学	64,325	39,159	103,484	3,696	107,180
500 技術・工学	31,630	5,064	36,694	545	37,239
600 産業	40,286	6,029	46,315	254	46,569
700 芸術	28,423	5,720	34,143	913	35,056
800 言語	23,926	10,985	34,911	2,259	37,170
900 文学	67,269	21,240	88,509	4,522	93,031
医学専門	0	0	0	98,582	98,582
合 計	603,550	151,542	755,092	119,449	874,541

受入冊数

松 江		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
和漢書	購 入	8,239	8,231	6,940	7,083	8,846
	寄贈・その他	1,643	2,598	3,495	3,210	4,743
	計	9,882	10,829	10,435	10,293	13,589
洋 書	購 入	857	550	518	325	941
	寄贈・その他	420	373	533	505	259
	計	1,277	923	1,051	830	1,200
小 計		11,159	11,752	11,486	11,123	14,789
出 雲		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
和漢書	購 入	1,659	1,660	1,490	1,647	1,370
	寄贈・その他	151	667	509	293	505
	計	1,810	2,327	1,999	1,940	1,875
洋 書	購 入	1,162	956	669	560	286
	寄贈・その他	10	34	68	22	35
	計	1,172	990	737	582	321
小 計		2,982	3,317	2,736	2,522	2,196
合 計		14,141	15,069	14,222	13,645	16,985

図書受入冊数の推移



利用の多い学生用図書の整備に重点をおき、2006(平成18)年度より共通経費として予算を確保し、整備を進めています。

年度ごとに、重点的に収集する分野もあります。本館では今年度、初年次教育プログラムの推薦図書、キャリア支援、学術情報リテラシー関連の図書を整備しました。

シラバス掲載図書や教員推薦図書の購入、学生による選書企画など、利用者の希望を取り入れながら、限られた予算の中で有効な選書ができるよう努めています。

■分野別の受入冊数と貸出冊数(松江キャンパス)(2009年度)

分 類	分 野	受入冊数	貸出冊数
000	総記	706	1,109
100	哲学、心理学、倫理学、宗教	263	1,881
200	歴史、地理	833	4,137
300	社会科学総記	38	325
	政治	255	947
	法律、経済、財政	1,455	4,763
	統計、社会、民俗学	416	2,538
300・500	教育(家政含む)	669	2,850
400	自然科学総記	41	505
	数学	245	2,458
	物理学	87	1,494
	化学	93	2,764
	天文・地学	85	858
	生物学	143	2,952
	医学・薬学	90	872
	技術・工学	566	4,147
500	農林水産業、商業、交通等	313	2,033
600	芸術、スポーツ等	250	1,516
700	言語	354	2,281
800	文学	904	4,771
その他	埋蔵文化財・遺跡	53	227
	郷土資料	212	12
	文庫・新書	590	4,058

■分野別の受入冊数と貸出冊数(出雲キャンパス)(2009年度)

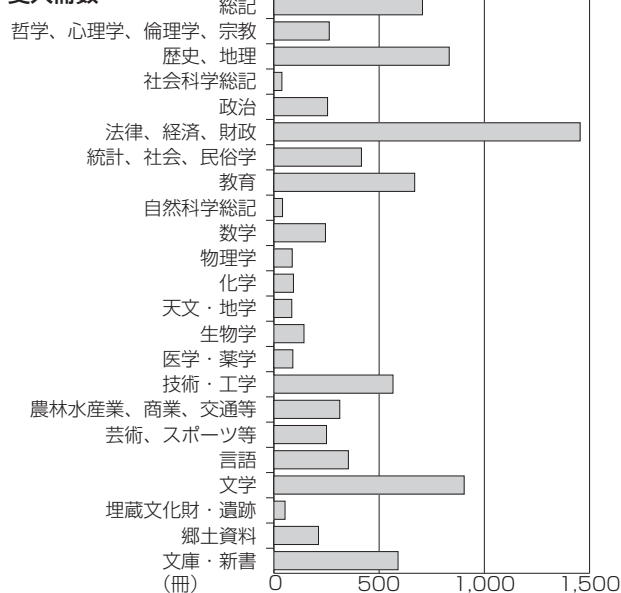
分 類	分 野	受入冊数	貸出冊数
000	総記	2	78
100	哲学、心理学、倫理学、宗教	15	154
200	歴史、地理	7	7
300	社会科学総記	1	14
	政治	1	0
	法律、経済、財政	6	26
	統計、社会、民俗学	26	70
300・500	教育(家政含む)	34	66
400	自然科学総記	9	15
	数学	4	62
	物理学	1	106
	化学	9	87
	天文・地学	5	2
	生物学	17	228
	医学・薬学	2	1
	技術・工学	7	19
500	農林水産業、商業、交通等	2	3
600	芸術、スポーツ等	7	2
700	言語	30	64
800	文学	10	79
Q	基礎医学	130	2,854
W-WX	臨床医学その他	736	7,573
WY	看護学	139	2,750

分類を少し細かくし、受入冊数と貸出冊数のバランスをみてみました。右のグラフは、2009年度の受入冊数、貸出冊数を分野別に比較したものです。

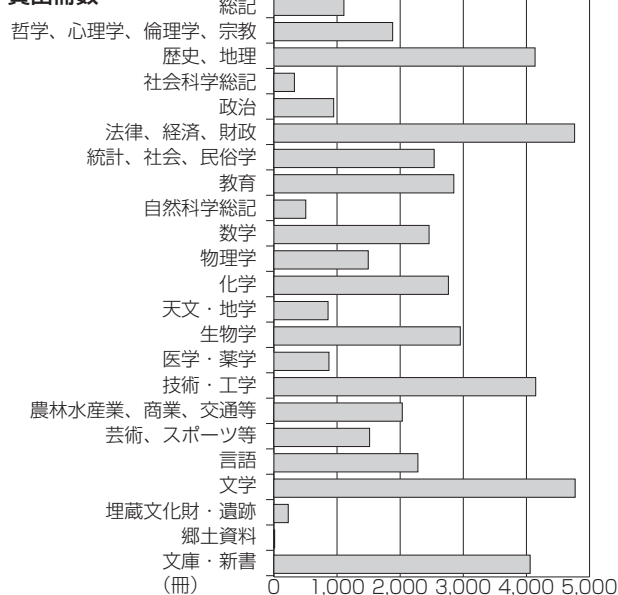
ただ単に分野間のバランスだけでなく、利用実績とのバランスを考えるのも大事です。今後、学生用図書を整備していくうえで、このような統計を参考にしながら評価していくことが必要です。

■受入と貸出のバランス(松江キャンパス)

受入冊数

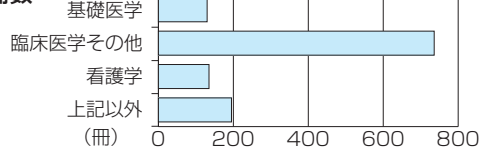


貸出冊数

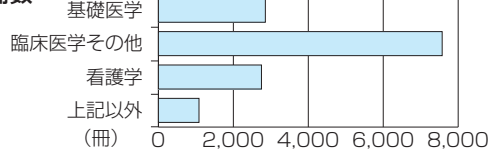


■受入と貸出のバランス(出雲キャンパス)

受入冊数



貸出冊数



雑誌

Periodicals

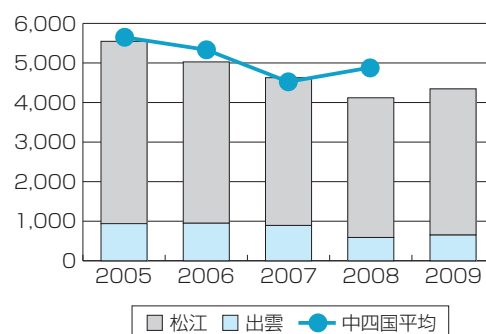
■受入種類数

松 江		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
和雑誌	購 入	670	626	665	631	604
	寄贈・その他	3,346	2,972	2,578	2,467	2,686
	計	4,016	3,598	3,243	3,098	3,290
洋雑誌	購 入	467	368	361	296	263
	寄贈・その他	125	112	131	137	142
	計	592	480	492	433	405
小 計		4,608	4,078	3,735	3,531	3,695
出 雲		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
和雑誌	購 入	206	218	202	191	212
	寄贈・その他	469	446	472	208	271
	計	675	664	674	399	483
洋雑誌	購 入	183	207	144	142	99
	寄贈・その他	81	78	75	48	68
	計	264	285	219	190	167
小 計		939	949	893	589	650
合 計		5,547	5,027	4,628	4,120	4,345

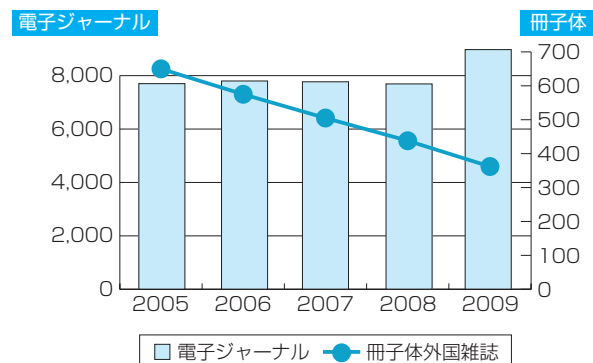
外国雑誌は価格高騰のため部局での購読中止が続いていますが、学生の利用が多い図書館備付和雑誌については、タイトルの見直しを行いながら購読を維持しています。

書庫狭隘化への対応で、寄贈雑誌は受入基準の見直しを行ったため、2007年以降受入タイトル数が減りました。2009年度は、電子化され無料公開されているタイトルを廃棄するなどの工夫により書架スペースを確保し、新規雑誌を受け入れるようになったためにタイトル数が増加しました。

■雑誌受入種類数の推移



■契約タイトル数の推移



電子ジャーナル

Electronic Journals

■契約タイトル数(2009年度)

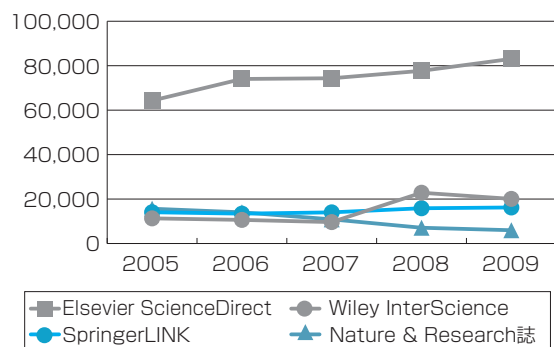
電子ジャーナル経費 (全学共通経費等)	Cambridge Online Package	225
	Elsevier : ScienceDirect	2,093
	JSTOR : Arts / General Sciences	235
	Nature & Research誌	9
	ProNAS	1
	ProQuest : Academic Research Library / Medical Library	2,250
	Science	1
	SpringerLINK	1,817
	Wiley InterScience	1,234
	小 計	7,865
部局経費	American Chemical Society (ACS)	36
	American Physical Society (APS)	8
	British Medical Journal	23
	IEEE : CSDL	27
	Karger	75
	Lippincott Williams and Wilkins (LWW)	100
	Medical Online	400
	PsycARTICLES	63
	Thieme (2010年より中止)	33
	その他単体	44
小 計		809
タイトル数 合 計		8,674

大学の研究を支える学術情報基盤として、汎用性の高いパッケージ及びコアジャーナルを購入しています。今や大学における研究活動に欠かせない電子ジャーナルですが、価格高騰に対応するため、毎年見直しを迫られています。2009年度は、価格抑制のため、Oxfordのパッケージを一時中止せざるを得ない状況となりました。

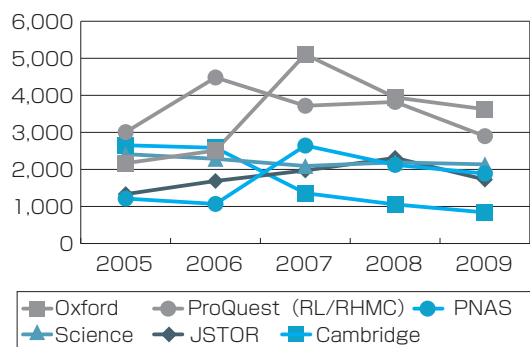
パッケージ内容の変更により全体の利用可能タイトル数は増えましたが、一括販売方式(ビッグ・ディール)をとる大手出版社の方針もあり、必要なコアジャーナルを個別に買い揃えることが困難であるなど、問題も多く抱えています。全国の大学でも同様の問題を抱えており、各大学の研究内容や規模に見合った最適なパッケージや契約モデルが求められます。

毎年、出版社との交渉やコンソーシアムへの参加など、できるだけ有利な条件での契約に努めていますが、今後の見通しも楽観できません。

■主要電子ジャーナルの利用状況(フルテキストのダウンロード件数)1月～12月期



※Wileyは、2008年にBlackwellを統合



※2009年のOxfordは、カレント契約を中止したためバックファイルのみの利用

上のグラフは、電子ジャーナル経費で整備しているパッケージ及びコアジャーナルの利用状況です。Elsevier ScienceDirect、Wiley InterScience、SpringerLINKの大手3社のパッケージは、多少の増減はあるものの安定した利用があります。その他のパッケージについ

ては、横ばいもしくは減少傾向にあります。

より一層の利用促進を図る必要がありますが、価格高騰が続く中、利用が少なくコスト高の電子ジャーナルについては、中止も検討せざるを得ない厳しい状況が続いています。

図書館資料費

Expenditures for Library Materials

■学生用図書・データベース・電子ジャーナル等

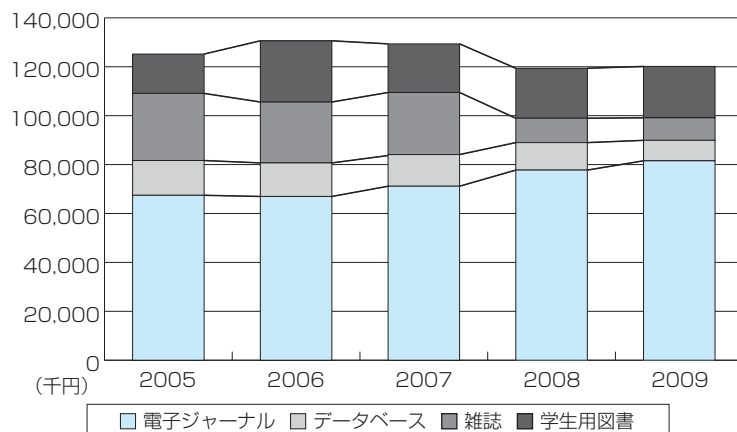
(千円)

		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
本館	学生用図書	11,007	18,427	14,745	15,203	15,651
	雑誌	9,582	8,323	8,895	6,227	5,759
	小計	20,589	26,750	23,640	21,430	21,410
医学図書館*1	学生用図書	5,069	6,608	5,128	5,226	5,361
	雑誌	17,869	16,580	16,489	3,736	3,461
	小計	22,938	23,188	21,617	8,962	8,822
データベース		14,220	13,717	12,951	11,239	8,372
電子ジャーナル*2		67,441	66,962	71,146	77,746	81,539
合計		125,188	130,617	129,354	119,377	120,143

*1 2007年以前の雑誌経費には、電子ジャーナルの部局負担分も含まれる。

*2 学術情報基盤整備計画(P.16参照)にかかる経費相当分

■図書館資料費の推移



学生用図書については、共通経費化により購入規模を維持しています。学生の利用の多い和雑誌も、学生用図書費の中で経費を確保して整備しています。

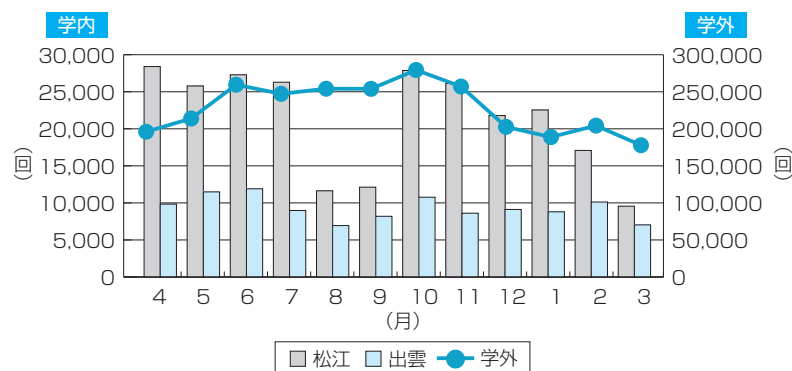
資料費の中では、価格高騰の続く電子ジャーナルが相変わらず大きな割合を占めています。全学共通経費等の措置により購入していますが、様々な努力により辛うじて継続できているような状態です。

必要なタイトルが維持できるよう、安定した財源の確保と、バランスのとれた資料整備に努めていかなければなりません。

Webサービス

WWW menu

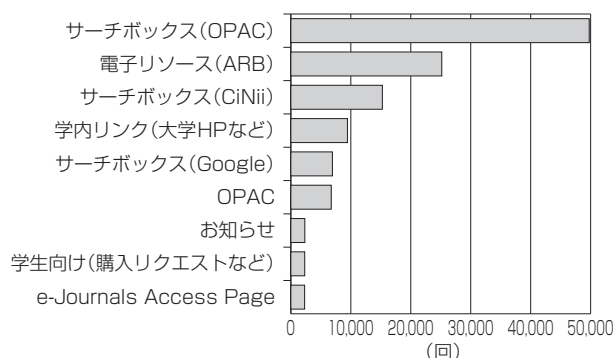
■図書館HPへのアクセス回数(http://www.lib.shimane-u.ac.jp/)(2009年度)



休業期間以外は、よく利用されています。

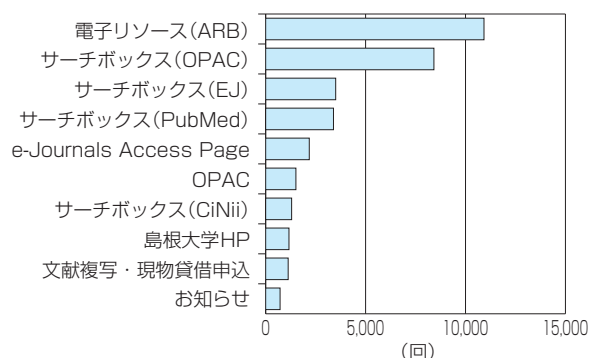
利用メニュー別をみると、両キャンパスともOPACや電子リソースを中心とした情報検索がほとんどで、学術情報基盤整備の重要性が感じられます。

■よく利用されたメニュー(松江キャンパスTOP10)(2009年度)



※ARB = Academic Resource Bank

■よく利用されたメニュー(出雲キャンパスTOP10)(2009年度)



■電子リソースの利用状況(ARB経由)(キャンパス別TOP10)(2009年度)

松江キャンパス		アクセス数	出雲キャンパス		アクセス数
1	CiNii	3,672	1	医中誌Web	7,612
2	島大OPAC	2,328	2	PubMed	4,286
3	Web of Science	2,035	3	メディカルオンライン	1,739
4	e-Journals Access Page	1,504	4	CINAHL (EBSCO)	854
5	JDreamII	1,056	5	e-Journals Access Page	844
6	LLi統合型法律情報システム	861	6	島大OPAC	792
7	朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」	671	7	JCR	566
8	日経テレコン21	647	8	UpToDate	552
9	現行法規 (D1-Law.com)	620	9	Web of Science	429
10	Current Contents Connect	617	10	CiNii	416

電子リソースの利用状況は、図書館が提供する学術情報源を集約して提供しているページ、Academic Resource Bankのアクセス数をみたものです。よく利用されているサービスには、キャンパスごとの特徴が出ています。

出雲キャンパスで医学関連のデータベースの利用が多いのは当然ですが、松江キャンパスでは、様々な分野の学術情報が利用されています。

利用頻度の多いメニューについては、利用者が迷わないよう、円滑なナビゲートが必要となります。利用者の意見や利用状況を参考にしながら、より使いやすいWebサービスを提供していきます。

相互協力

Interlibrary Loan

■文献複写件数

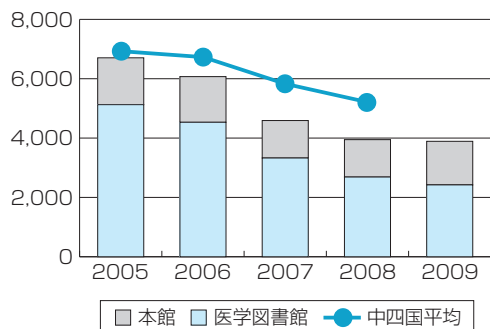
		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
本 館	受 付	1,579	1,539	1,263	1,260	1,469
	国内依頼	3,537	3,917	4,018	4,039	3,666
	海外依頼	60	26	16	25	9
医学図書館	受 付	5,126	4,532	3,328	2,687	2,422
	国内依頼	4,787	3,789	4,062	3,190	3,303
	海外依頼	25	4	5	13	15

■現物貸借件数

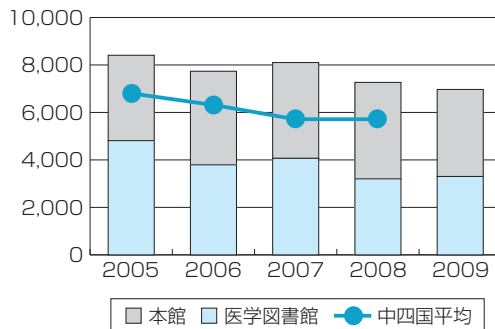
		2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)
本 館	貸 出	215	218	224	219	263
	借 受	237	292	332	472	535
医学図書館	貸 出	24	28	26	17	9
	借 受	9	14	14	24	29

※海外との現物貸借は実施していない

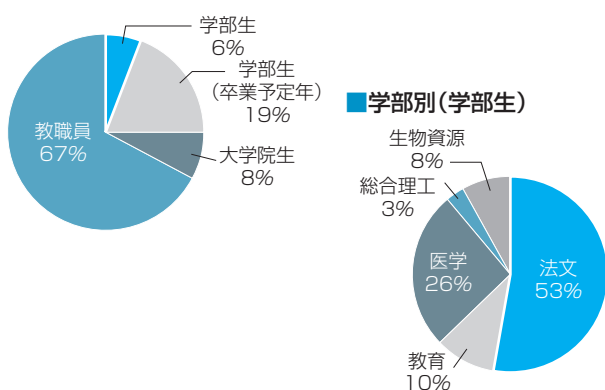
■文献複写受付(提供)件数の推移



■文献複写依頼(取寄)件数の推移



■文献複写依頼 身分別と学部別(2009年度)



文献複写や現物貸借といった図書館間の相互協力は、図書館の提供する基盤的なサービスの一つです。

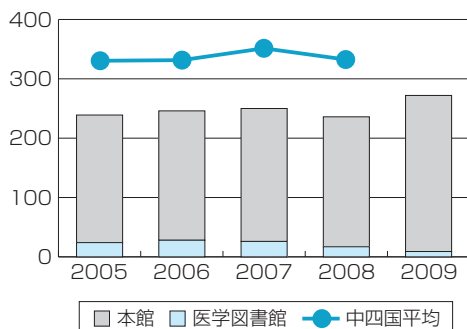
文献複写は、受付・依頼ともに減少傾向にあります。中四国の平均も同様であり、全国的な傾向であることがわかります。パッケージ型電子ジャーナルの普及や機関リポジトリなどの進展に伴い、論文等が手軽にWeb上で入手できるようになったことが主な要因といえます。

文献複写の依頼状況を見ると、主な利用者は教職員で、学部生の申し込みでは、卒業研究等が課される卒業予定生がほとんどです。学部別では法文学部、医学部(主に看護学科)が多くなっています。

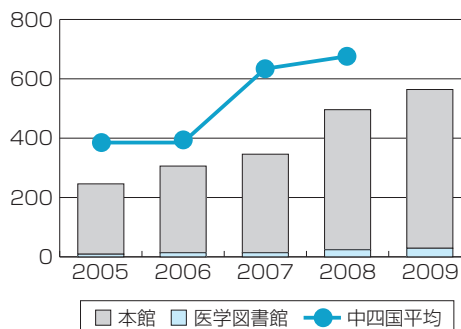
現物貸借は、2008年度より本館で学年による申込制限をなくしたため、依頼件数が急増しました。

(学部生の申込件数:2007年度/12件、2008年度/92件、2009年度/157件)

■現物貸借受付(貸出)件数の推移



■現物貸借依頼(借受)件数の推移



図書館日誌

図書館日誌(2009.4~2010.3)

	共通・松江キャンパス(本館)	出雲キャンパス(医学図書館)
4/ 12	まちなか大学祭 古本市	
4/ 16	第57回中国四国地区大学図書館協議会総会	
4/ 17	第36回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会	
5/ 13	新任教員図書館ガイダンス	
5/ 28	アーカンソー大学より見学	
6/ 10		第1回医学分館運営委員会
6/ 19	本館ニュースレター「LiMe:ライム」創刊	
6/ 24	学生選書ツアー	
7/ 8	不用雑誌無料提供会(10日まで)	
7/ 8	第1回選書会(9日まで)	
8/ 5	環境整備	オープンキャンパス
8/ 31	インターンシップで法文学部生1名を受入(9月11日まで)	
9/ 7	第1回附属図書館運営委員会	
9/ 17		第18回島根県医療関係機関等図書館(室)懇談会(医図懇)総会 ＜会場:玉造厚生年金病院＞
9/ 29	中四国地区国立大学貴重資料パネル展示会 ＜会場:岡山市デジタルミュージアム＞ (10月18日まで)	
10/ 1	中学生職場体験で3名を受入(2日まで)	
10/ 3	3館合同企画展示会「江戸を旅する 明治に学ぶ」(11日まで)	
10/ 4	同 講演会	
10/ 21	第2回選書会(22日まで)	
10/ 22	第50回中国四国地区大学図書館研究集会において事例発表 ＜会場:高知大学＞	
10/ 30	第5回蔵書リユース市(11月1日まで)	
11/ 27	シンポジウム・遺跡リポジトリ ＜会場:大阪大学＞	
12/ 7		第2回医学分館運営委員会
12/ 17		第6回島根県病院図書室セミナー
1/ 13	第2回附属図書館運営委員会	
2/ 20	共同企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」 ＜会場:旧奥谷宿舎＞ (21・27・28日も)	
2/ 24		大森文庫ミニ展示 (6月まで)
3/ 1	図書館システム更新 共同企画展示「旧制松高・師範学校時代の学問と教育」 ＜会場:図書館＞ (4月16日まで)	
3/ 11	島根県大学・高等専門学校図書館協議会総会及び職員研修会	
3/ 12	館内職員研修会	

年間刊行物

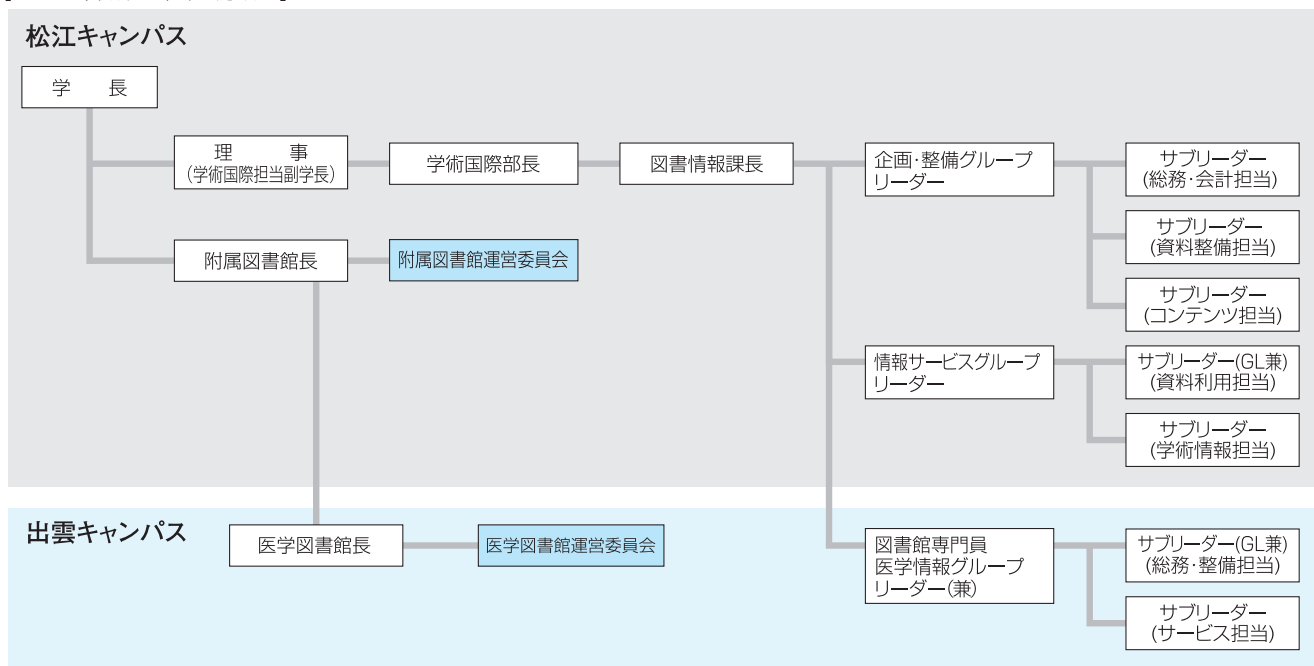
2009(平成21)年 7月	島根大学附属図書館年報2008 A4判、24p. トピックス、図書館の動向、統計 ほか
10月	3館合同展示パンフレット「江戸を旅する 明治に学ぶ：山陰の歴史、経済、教育・文化」 A4判、16p.
12月	図書館報「沁雲」第10号 A4判、20p. 特集：利用者の声を取り入れた資料整備を ほか
2010(平成22)年 3月	本館／医学図書館利用案内
3月	テキスト共同刊行「学術情報リテラシー：情報活用能力の向上のために」改訂第1版 B5判、143p.
月刊	LiMe:ライム No.0～8(6月創刊)
月刊	インフォアクセス Vol.5 No.4～Vol.6 No.3

新聞・テレビ等で報道された附属図書館

2009(平成21)年 4月13日	・まちなか大学祭	中国新聞
5月18日	・中国四国地区大学図書館協会総会ほか	文教ニュース No.2035
5月21日	・ブック★コンパス「裁判員制度」	日本海テレビ
7月 8日	・堀尾期松江城下町絵図	NHKテレビ
10月 2日	・3館合同企画展示・講演会開催	山陰中央新報
10月 3日	・3館合同企画展示内覧会	山陰中央新報
10月24日	・3館合同企画展示・講演会	マーブルTV(山陰ケーブルビジョン)
10月28日	・第5回蔵書リユース市	山陰中央新報
11月 2日	・3図書館合同展示・講演会「江戸を旅する、明治に学ぶ」	文教ニュース No.2059(11.2)
11月10日	・第5回蔵書リユース市	山陰中央新報
12月14日	・シンポジウム遺跡資料リポジトリ開催	文教ニュース No.2065(12.14)
2010(平成22)年 2月21日	・共同企画展示(旧制松高ほか)	山陰中央新報 NHKテレビ

組織

【2010(平成22)年7月改正】



人事異動

【2009(平成21)年7月1日発令】

氏名	異動後	異動前
品川 祐治	総務部総務課係長	学術国際部図書館情報課係長
内田 聡	学術国際部図書館情報課係長	医学部医療サービス課患者サービス室専門職員
金田 紀子	学術国際部国際交流課係員(留学生交流担当)	学術国際部図書館情報課係員(学術情報担当)
米田 政子	学術国際部図書館情報課係員(学術情報担当)	学術国際部図書館情報課係員(コンテンツ担当)

【2010(平成22)年3月31日発令】

氏名	異動後	異動前
野村 正人	退職 佐賀大学学術研究協力部情報図書館課長(4/1付け)	学術国際部図書館情報課係長
加本 純夫	定年退職	学術国際部図書館情報課図書館専門員
吉井 紀子	定年退職	学術国際部図書館情報課係長
飯田 啓子	定年退職	学術国際部図書館情報課係長

SHIMANE
UNIVERSITY
LIBRARY
Annual Report
2009



島根大学附属図書館年報 2009

2010年(平成22年)7月発行

発行：島根大学附属図書館

本館／〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089
医学図書館／〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095

